



# IV-NEWS

Vol. **49**

富永幸子代表理事 社会貢献支援財団 奨励賞(個人)受賞！



11月27日(月)、帝国ホテルにて第60回社会貢献者表彰式典・祝賀会が執り行われました。社会貢献者表彰式典は毎年夏と秋に開催され、社会課題の解決のために多様な地域や分野で活動する30組の個人・団体が表彰されます。また、過去に社会貢献者表彰を受賞し、その後も顕著な活動を継続している個人や団体には奨励賞が贈呈されます。今回の第60回式典では、富永代表理事がこの奨励賞を個人で受賞いたしました。会場ではIV-JAPANと富永代表理事の活動を紹介する映像が流れ、平成23年度に社会貢献者表彰を受賞した後もラオスにおける職業訓練事業に邁進し、青少年の自立を支援し続けていることが伝えられると会場は大きな拍手に包まれました。

今回贈呈された賞金は、地方からナーサイトン職業訓練校に通う女子生徒たちのための女子寮の建設費用として使われ、9月に行われた開所式には社会貢献支援財団の会長を務める安倍昭恵様も駆けつけてくださいました。

## もくじ

- P2 女子寮開所式、さいたま市長ラオス訪問
- P3 高齢者介護職業訓練
- P4 創立35周年記念講演会・昼食会開催
- P5 第2のふるさと作り
- P6 パルシステム平和募金授与式、第20回通常総会承認—活動報告・決算報告・役員名簿—
- P7 幸子だより
- P8 各種お知らせ

## ナーサイトン職業訓練所に女子寮ができた！

社会貢献支援財団会長 安倍昭恵様 女子寮開所式出席

念願の夢だった生徒寮が9月4日に開所式を迎えることができました。社会貢献支援財団の奨励賞をいただいたことで、副賞の賞金で建設に漕ぎ着けました。ビエンチャン都教育局も日本大使館にグラスルーツグラントの申請を出して、自助努力はしたのですが、かないませんでした。ナーサイトンでは2011年から職業訓練を開始しましたが、遠方の生徒が泊まる寮を借り上げなくてはならず、運営費を圧迫していました。

開所式当日は同財団の安倍昭恵会長がたった1日半のご滞在ですが、駆け付けて過密スケジュールをこなしました。小林日本大使も開所式にご臨席いただき、日本大使公邸で夕食会を開いてくださいました。教育大臣との面談や、ラオス側も元首相夫人ということで、大統領夫人が手作りの豪華なアフタヌーンティーでもてなしてくださいました。夜はメコン川河畔のラオディーバーにご案内し、ロンドンで金賞を取ったラオスのラム酒をたのしまれました。

女子寮の前で



大勢の訓練生たちと



IV-JAPAN よりナーサイトン郡へ女子寮の鍵の引き渡し



訓練生に質問する安倍会長



自然豊かなナーサイトン訓練所敷地内の女子寮

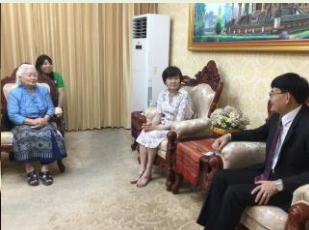


大使公邸の夕食会



教育大臣、副大臣と一緒に

大統領夫人とのアフタヌーンティー



東北大出身の教育大臣と共に日本語で歓談

## さいたま市長 12年ぶりラオス訪問

さいたま市水道局業務部経営企画課 園田圭佑様よりご寄稿

11月15日(水)、さいたま市より清水勇人市長、以下14名でIV-JAPANの職業訓練校を視察させていただきました。

今回は、ラオス国の3水道公社(首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、カムアン県)とさいたま市水道局が、水道分野の技術協力に関する覚書を締結(更新)するための訪問で、前回更新時(7年前)はさいたま市において締結式を実施したため、実に12年ぶりの大所帯による訪問となりました。



ビエンチャン都副教育長の歓迎挨拶



熱心に IV-JAPAN の事業説明を拝聴する代表団



富永幸子代表理事と市長

訓練校において、富永代表より事業概要を説明いただき、実習に使う教室を視察、OJT(洗髪、マッサージ)も体験させていただきました。35年にわたりラオスに根差した活動を継続されていることだけをとても一同頭の下がる思いでしたが、現地のニーズ、時代のニーズをくみ取り新たな職業訓練校や訓練コースを立ち上げるなど、現状に満足せず日々進化していることも、IV-JAPANが多くの賛同を集め、高く評価をされている理由であると感じました。



訓練所でのOJT体験

## 高齢者介護職業訓練第2期開催

(埼玉県国際交流基金、パルシステム埼玉平和募金事業)

9月から11月までの3カ月間、第2期高齢者介護職業訓練を開催しました。開催に先立ち7月から8月は訓練生のリクルートのため、各村々を訪問しましたが、若者が村にいません。コロナ禍で物価が毎月のように上がり、ほとんどの日用品や食料品をタイからの輸入で賄っているラオスは生活が苦しくなりました。産業も少なく就職先も見つからないので、ラオ語の通じるタイへ、人口750万人のラオスから何と50万人が働きに出ています。タイでは給料は10倍近くになるので家族と離れてもタイへ出稼ぎに行きます。

ようやく7人の訓練生と訓練を開始。第2期の特徴はパルシステム埼玉平和募金のご支援でシイタケ栽培を始め、菜園活動と共に寮生の食料としたことです。また、高齢者のデイケアサービスを初めて実施しました。ラオスでも核家族化が進み昼間は家で一人取り残されている高齢者が多くなり、デイケアサービスは歓迎され、来年度は規模も大きくする予定です。

事業地のナーサイトン訓練所は6.5ヘクタールもあり、緑豊かで村民は牛やヤギの放牧に来ます。埼玉県国際交流基金のお陰で元協力隊の理学療法士さんも招聘でき、訓練内容も充実しました。



デイケアサービス実習



みんなで昼食



心臓マッサージ実習



血圧測定実習



リハビリテーションセンター見学



お寺でのインターンシップ



菜園活動(キノコ)



菜園活動(野菜畑)



菜園活動(モヤシ)



毎月の誕生日会

## 活動を終えて

ボランティア 鳳野由夏(理学療法士)

約3か月間のラオスでの活動を終了しました。

今回のラオスでの生活は半年ぶり、2回目なのでとても楽しみだったのですが、授業が始まる前日に到着して少し緊張していました。赴任当初、私が一番心配だったことは、高齢者介護というイメージがほとんどない人達にきちんとした知識と技術を伝えることです。ただラオスでは病気をして入院をしても、ケガをして入院をしても家族がすべて介護をします。ヘルパーという職業もなく、看護師も基本的には身体的ケアしか行わないのです。そんなラオスで学びに来てくれたみんなには正しい知識をつけてほしいと、相方の先生とは毎日放課後に話し合いを行いました。時には先生にも教えたり、教科書に無いリハビリ的な視点からの知識もお伝えしたりしました。とても難しい内容だったと思いますが、みんな真剣に、そして楽しく熱心に勉強してくれたので、最後には胸を張って送り出すことができました。

学生の人数が少なかったこともあり、とても家族のように仲良くなり、休日にみんなで集まって遊ぶこともありました。あっという間に3か月が終わってしまい、お別れはとても寂しかったですが、みんなが学んだことを生かせる道に進んでくれることを願っています。



## 創立 35 周年記念講演会

### 「現場は面白い ～ラオスあるある～」 & 昼食会開催！

副代表理事 河島 一郎

1988年の「国際ボランティアの会」誕生から数えてIV-JAPANの活動も早35年。その35周年を記念した講演会「現場は面白い ～ラオスあるある～」を、12月10日（日）に東京都板橋区立グリーンホールで開催しました。

講演会には昨年富永代表と対談した坂本健板橋区長をはじめ、中堅NGO研究会の加藤陽一共同代表、ビアラオ正規代理店である寮都産業㈱の村松賢志代表取締役など多くの方々にご参加いただきました。

講演会は坂本区長のご祝辞から始まり、村松代表によるラオスと日本や寮都産業とIV-JAPANとの繋がりなどのご講演、ラオスから来日中で介護技能実習生であるロマーさんのご紹介の後、約1時間にわたる富永代表によるIV-JAPANの35年の歩みとラオスの現状と課題についての講演で幕を閉じました。

ご参加された方々からは、大変参考になった、ラオスに行ってみたくなった、IVの活動に協力したいなど、開催しがいのあるありがたいお言葉をいただくことができました。

その後、30周年事業報告会の懇親会でラオス料理をご提供いただいた近くのタイ料理店「プリックタイ」に場所を移し、ラオス料理と村松代表からご寄付いただいたビアラオをご堪能いただきました。皆様お腹も会話も大いに満ち、懇親を深めていただけたようでした。ご参加の皆様、プリックタイのペンチャン様、村松代表、ご協力ありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。

今後も40周年に向けてIV-JAPANの支援事業を継続・拡大していくためには、ラオスという国やIV-JAPANの活動の認知・理解度を向上させ、より多くの方にご賛同ご協力いただくことが不可欠であると考えております。

既にご支援いただいている皆様にご感謝申し上げますとともに、新たな方々からのご支援が事業継続の一助になると考えておりますので、今後ともIV-JAPANをよろしくお願い致します。



## アジアから来る若者の第2のふるさと作りプロジェクト

——専門的な人材の育成

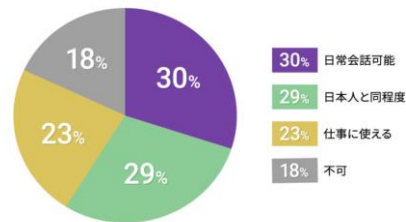
核となる相談員・日本語指導員の育成講座（全10回）

修了式を終える

パルシステムの支援により9月9日から始まった講座が12月16日に終了しました。最終日の12月16日には、ラオスから帰国中のIV-JAPAN 富永幸子代表から受講生に修了証が授与されました。

9回の講義や演習を通じて、外国人労働者が増加傾向にあり、特にアジアからの若者が増えていることを知りました。また、在留資格等の制度的なことを系統的に学び、さらにワークショップを通じて、外国人が日本語の「どなたところを難しい」と感じるのか体験しました。講師が紹介した相談事例等から、出身国の習慣や考え方の違いから起こるトラブル、日本語を話せない・理解できないことから起こる問題について知り日本人の側からのサポートが必要なことが少なくないと感じました。

### 在留外国人調査：日本語能力



日本語ができる。  
8割を超える。

ただし、  
やさしい日本語!!

人権教育啓発推進センター（2017）「外国人住民調査報告書 一訂正版一」（法務省の委託調査）より作成

機会があれば、今回の講座で学んだ、「やさしい日本語（易しい・優しい）」を使って相手に伝えたいと思います。多くの在留外国人は、簡単な日本語を理解できるとのデータが示されています。例えば、

**例：「頭部を保護してください」→「帽子をかぶってください」**

※ハサミの法則→はっきり、さいごまで、みじかく

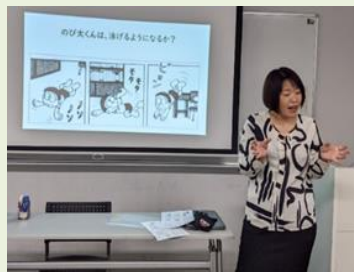
の様に、在留外国人にも分かるように配慮した簡単な日本語でコミュニケーションをとることで、安心して話せる関係作りをすることから始めたいと思います。

共に日本の社会を支えている人同士として、「ちがいを」楽しみ、お互いに学び合う場が必要です。

私たちの目的はこれで終わるわけではなく、「アジアから来る若者の第2のふるさと作り」に向けて、次の一歩を踏み出しますので、引き続きご支援・ご協力をお願いいたします。

授与式に参加した皆様と富永代表・利根川理事（当日欠席者を含めて11名に授与）

おめでとうございます！



講師の皆様と講義中の受講生の様子

## パルシステム埼玉平和募金 2023 贈呈式

12月8日(金)、さいたま市浦和区の「ぱる★てらす」にてパルシステム埼玉平和募金贈呈式が執り行われました。パルシステム埼玉平和募金は、同じ地球に暮らす子どもと女性が人間らしく暮らせる地域社会を創るため、コーヒー1杯程度の金額からできる国際支援として2002年から始まった取り組みです。今年度は7月17日～8月11日の期間に募金が呼びかけられ、250名の組合員さまからIV-JAPANを含む5つの団体に総額2,238,911円の募金が集まり、IV-JAPANは391,944円の募金をいただきました。この募金は物価の高騰のため食費に十分なお金をかけられずにいるナーサイトン職業訓練所の生徒たちの支援に役立ててまいります。贈呈式には一時帰国中の富永代表が出席し、活動報告を行いました。



### 第20回通常総会承認（6月17日開催）—事業報告・決算報告・役員名簿—

#### 2022年度 主な事業実施報告

奨学金事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆カノック奨学金:64名分の奨学金が集まり、ラオスの職業訓練生に奨学金を支給した。</li> <li>◆チャンパー山の民奨学金:ホスピタリティ介護職業訓練に参加した15名の食費(生活費)・交通費として支給した。</li> </ul>
海外事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ラオス木工職業訓練校における教育レベル向上プロジェクト(JICA 草の根パートナー事業5年目)実施 VEDIの教員と学生に対し、継続して家具の制作指導を行った。</li> <li>◆地方の女性・青年の就業促進のためのホスピタリティ介護職業訓練(外務省 NGO 連携支援無償資金事業延長) 第4期のホスピタリティ研修3か月間を実施した。</li> <li>◆ビエンチャン都辺境郡の女性の自立のための介護職業訓練(彩の国さいたま国際交流基金+山の民奨学金+カノック奨学金+パルシステム平和募金) 第1期介護職業訓練を15歳～40歳の男女15名に対し実施した。</li> </ul>
国内事業・開発教育	グローバルフェスタ、国際ふれあいフェア、大宮区民ふれあいフェア、あげおワールドフェアへ出展。ラオス料理教室の開催。芝浦工大宮キャンパス、大宮区市民活動ネットワーク登録団体活動紹介展示会にて活動を紹介。各種イベントの実施により、国際協力への理解が深まったと反響があった。
組織基盤強化	Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs を活用し、組織基盤を強化。運営体制を見直した。

#### 2022年度 決算報告

経常収益	◆受取会費 220,000円
合計	◆受取寄付金(奨学金含む) 8,205,566円
20,753,963円	◆受取助成金 2,419,713円
	◆事業収益 8,097,939円 ◆その他収益 1,810,745円
経常費用	◆事業費 11,154,771円
合計	◆管理費 8,471,525円
19,626,296円	◆経常費用のうち事業に使用された費用の割合を示す事業費率は56.8%。
当期正味財産増減額	1,194,972円

#### 役員名簿

代表理事	富永 幸子
副代表理事	河島 一郎
理事	飯村 浩 金野 喜久子 斎藤 加代 サハジ スレスタ 利根川 恵子 安田 昌美
監事	河島 一成 森本 進

#### 2023年度 主な事業計画

奨学金事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆カノック奨学金:60名分の奨学金を募集する。</li> <li>◆チャンパー山の民奨学金:ホスピタリティ職業訓練やビ都辺境郡女性のための介護職業訓練に参加する10名の食費(生活費)・交通費として支給する。</li> </ul>
海外事業	ビエンチャン都辺境郡の女性の自立のための介護職業訓練を実施します。ビエンチャン都にある辺境郡(パクグム郡、サントン郡)に住む貧困家庭出身の女性(10～15名×1期)に対し、1期3か月間の介護訓練を実施予定。
国内事業・開発教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆在留外国人支援講座 在留外国人に対して日本語サポートや生活相談をするため事業にあたるボランティア・関係者及び相談者の費用等内規を検討する。『在留外国人支援チームによる「主にアジアから来る若者の第2のふるさと作り」準備プロジェクト』</li> <li>◆スタディーツアー実施 職業訓練所や現地の教育施設などのスタディーツアーを通して、ラオス事情や国際協力についての理解を促進する。</li> <li>◆大学生インターン・ボランティア受入 インターン・ボランティアを日本事務所及びラオス事務所で受け入れ、プロジェクト等を通して国際協力の理解を深め、将来国際的に活躍する人材を育成していく。</li> <li>◆35周年活動報告会・35周年記念冊子の発行</li> </ul>
組織基盤強化	自己資金拡充のためにHPの改定や広報活動の見直しと実施などを実践していく。

## 幸子のラオスだより —ラオスで日本文化紹介—

ラオスに来てからおよそ 30 年になりますが、日本はお金持ちの国という印象がラオス人には強かったです。それで 10 年間、毎年ラオス情報文化省下の青年民族舞踊団（アマチュアの高校生の集団）を日本に招聘して、ラオスの文化や舞踊の公演を日本各地で行い、民泊を基本に普通の日本の家庭を味わってもらいました。ラオスの家は広いので、皆、日本の狭い家屋にびっくりして、そういう普通の庶民がラオスを支援していることを理解してもらいました。また、ラオスってどこ？とほとんど知られていないラオスを知ってもらう良い機会でした。と、同時に日本文化を広め、日本を理解してもらうのも、国際協力をしていると大切です。それで、毎年ラオスに来ていたスタディツアーの参加者に折り紙、舞踊、書道、華道、茶道等のボランティアをしていただき、着物ファッションショーや浴衣で写真撮影なども好評でした。

茶道は自宅に常設の茶道教室を開設して、ラオス Tea Festival には毎年参加して今年は 100 人に呈茶しました。更に表千家国際茶道連盟が発足したので、茶道連盟ビエンチャンとして登録申請をしております。

今年は東芝国際交流財団様の助成で、英語落語の鹿鳴家（カナリヤ）英楽師匠一門を招聘して高校や JICA 等で 4 公演、610 人の参加者がありました。400 年も歴史のある庶民のコミックストーリーに関心が高まりました。

有名な女優の結婚の前取り写真を頼まれ、着付けを習ったこともありませんが、断り切れずにありあわせの振袖に内掛け、お婿さんには息子の着物を着せました。広報効果は抜群で 1000 以上の「いいね」がフェースブックには着いていました。

ラオスでは J ポップより K ポップに、空手よりテコンドーに押され気味ですが、日本のアニメは若者に根強い Japan ファンが多いです。今後も日本文化を発信していきたいと思えます。



ラオス  
Tea Festival で  
100 人に呈茶

ラオス人による  
茶道



花嫁着付け



日本大使ご夫妻も参加



英語落語  
東芝国際交流財団様助成で  
4 公演開催



## ラオス千客万来

9月4日 社会貢献支援財団安倍会長、池田部長 同 小林日本大使、菊地書記官	11月3日 女優トットリナ様、ブランドン様
9月12日 都留文科大学佐脇英志教授 同 AAR 理事高橋敬子様	11月11日 WHO 協会窪田昭男小児外科医
9月14日 国際交流基金三好陽様、澤野紀子講座調整員	12月21日 AAR ラオス代表岡山典康様
10月1日 元美容専門家守谷まゆみ様とご家族	日本事務所
10月22日 鹿鳴家英楽英語落語師匠とお弟子さん2名	11月16日 高岡万葉ロータリークラブ3名
10月25日 元木工家具指導者石橋幸次様	12月14日 正会員関矢綾子様
	12月18日 ドナー小沢秋子様

いつもご寄付ありがとうございます。寄付者をご紹介します。

2023年8月1日～2023年11月30日※敬称略・順不同

## チャンパー山の民奨学金 寄付者 1口60,000円

高岡万葉ロータリークラブ(3口) 山口正志(1口)

## カノック奨学金 寄付者一覧 1口12,000円

斎藤加代(3口) 亀田誠一郎(2口) 宮澤雅博(2口) 又吉ミチ(1口) (有イチカワ北海食品(1口))

## 国際協力費・運営費 寄付者一覧 ※2,000円未満は省略させていただきます。

社会貢献支援財団(100,000円)、寮都産業株式会社(44,000円)、須藤達也(30,000円)、宮越太郎(15,000円)、織田佐由子(12,000円)、宮澤雅博(6,000円)、古谷朋子(3,000円)、伊藤弘美(3,000円)、藤田カツノ(3,000円)、佐復正雄(3,000円)、高倉昌子(3,000円)、田中誠吾(3,000円)、田辺三矢子(2,000円)、岡田久恵(3,000円)、高井みあ(3,000円)、Mia Singns(3,000円)、北岡美和(3,000円)、Varissara Tangsouvanh(3,000円)、西村祐輝・生歩(3,000円)、長瀬直子(3,000円)、中嶋尚美(3,000円)、間崎恵美子(3,000円)、窪田昭男(3,000円)、(有イチカワ北海食品(10,000円)、高井富二子(10,000円+\$100))

SNSでもIV-JAPANのお知らせをご覧になれます。  
ぜひ、ご登録おねがいいたします。



@IVJAPANHQ



@706lmpfg



@IvJapan



IVJAPANMIHASHI

“クレジットカード”からもご寄付できます！

(国際協力費・運営費のみ)

1回のご寄付または、毎月のご寄付(500円～)をお選び頂けます。



詳しくは  
←ホームページ  
をご覧ください。

## IV-JAPANの活動はみなさまのご寄付に支えられています

## ●IV-JAPANに寄付をすることで活動に参加しませんか？

- ①カノック奨学金 12,000円(1口)以上 奨学生の授業料補助になります
- ②チャンパー山の民奨学金 60,000円(1口)以上 訓練中の食費や交通費として
- ③国際協力費・運営費 個人:3,000円以上/団体・法人:10,000円以上

## ●申込方法 ※銀行振込の方は事務局までご住所等詳細をお知らせください。

郵便振替:(口座番号)00140-5-537168 (加入者名)IV-JAPAN

銀行振込:埼玉りそな銀行浦和中央支店 普通預金 口座番号:5038052

名義人:(特非)国際協力 NGO・IV-JAPAN



認定・埼玉県指定 特定非営利活動法人 国際協力 NGO・IV-JAPAN

当会へのご寄付は、寄付金控除の対象になります。

日本事務局

〒330-0856

埼玉県さいたま市大宮区三橋 2-545-2-101

TEL/FAX:048-622-8612

E-mail: [iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp](mailto:iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp)

ホームページ:<https://iv-japan.org/>

ラオス事務所

P.O Box7920 Vientiane, Lao PDR

TEL/FAX: +856-21-316047

E-mail: [ivjapan.vte@gmail.com](mailto:ivjapan.vte@gmail.com)



アカウンタビリティ  
セルフチェックマーク